

スズメバチの巣づくり

今回は、スズメバチの巣づくりの速さについてお伝えします。雲の広場の外周道路沿いに植えられたクヌギの辺りをハチがたくさん飛んでいるという利用者の情報を得て、樹液に群がっているだけなのか、巣が作られているのかを確認に向かいました。



スズメバチだと確認できましたが、その種類も巣の大きさもわからないので、うかつに手を出すと攻撃されてしまいます。そこで、注意看板と毒エサをそばに置いて、ハチが減ることに期待しつつ、しばらく様子を見ることにしました。

広場内を見渡すと、民家に近い外周部にハチが数匹確認できたので、ゆっくり近づいてみました。根元付近にできた樹洞(ホウ)にハチが出入りしています。また、入口部には外を見張るハチの姿も見えました。しかし、中がどのようなになっているの分かりません。



毎日観察しましたが、ハチの数が減る気配はありません。それどころか、ホウの中にはスズメバチ独特の模様をした巣が広がってきました。そして、5日後には、ホウの入口が巣の外壁で埋められてしまいました。球体だったらバスケットボールより大きいくらいの形です。



巣を作るのが、このように早いとは想像もしていませんでした。さらに、覆いつくした外壁の美しいまだら模様は芸術品のようです。思わず見とれてしまいました。

しかし、公園利用者の方々に危害が及ぶ可能性が高まったのが確かです。

そこで、処理するために区役所からハチの防護服を借りてハチを撃退し、ホウは、上の写真の様にモルタルで封鎖しました。メルヘンな模様の巣より、安全と安心を優先させていただきました。

